

6/14 木曜



## 辺野古新基地「反対」56万人分

実行委・オール沖縄、野党議員に署名提出

沖縄県名護市辺野古の米軍新基地建設断念を求める国会議員署名実行委員会と「オール沖縄会」は23日、国会内で集会を開き、「同新基地反対の民意実態のため、全国55万9224人の署名を、党派を超えて集めた野党国会議員らに提出し、新基地建設阻止へ決してあわるめならず」と唱を上げました。

稲嶺進実行委員長は、新基地問題は日本の民主主義と地方自治のあり方を問う、国民主権のための「極めて基本的な問題だ」と強調。集まった署名は問題を「全國民が自分ひとり受け止めた結果」だとして「全國民の問題として国会の場で議論をしてほしい」と訴えました。

右の(右)からの署名を受け取る國会議員(左)。左から二人目は穀田恵一、國政議員会館

実行委員会の福元勇司事務局長は、県民が反対の民意を示しても国が新基地建設をやめず、司法に訴えても裏切られ続け、米軍基地が集中し続ければ、「誰も犠牲にしない、分断されない健全な社会となるので、全国の市民と一緒に連帯して声を上げていこう」と述べました。

署名を受け取った日本共産黨の穀田恵一衆院議員は、「民意を無視した建設強行は「絶対許せない。入江口ではなく全国の問題だ。悪政を進めてくる岸田政権に対しては、岸田政権に対しても力を込めました。日本共産党の赤嶺政賢衆院議員も参加しました。